

自然体験活動指導者（NEALリーダー）養成事業

報 告 書

国立赤城青少年交流の家では、1月7日（土）～1月9日（月）の2泊3日の日程で、教育事業「自然体験活動指導者（NEALリーダー）養成事業」を開催しました。この事業は、青少年向け自然体験活動プログラムにおいて、発達段階に応じて適切かつ安全に指導ができる自然体験活動指導者を育成するものです。参加者は、小学校教諭、国公立青少年教育施設職員、地域のNPOや企業などの体験活動実施団体23名が参加しました。

初めに、主任講師からNEALリーダー講習が、「これから指導者を目指そうとする人」を対象としていることが確認されました。そして、「この講習は入門者向けであること」「内容はベーシックなものであること」「ボランティア養成と並行して行うこと」の3点が説明されました。また、講習終了時には全員がNEALリーダーとして指導できる知識とスキルを身に付けられることが説明されました。

【1日目】ねらい：自然体験活動のそもそもについて理解する日

ガイダンスにおいて、「自然体験活動指導者とは」「指導者養成制度の全容と経緯」「ボランティアカリキュラムと一緒に行うことの説明」についての解説がありました。講義では「ボランティア活動の意義」「青少年教育における体験活動」「対象者理解」について学びました。ボランティア活動をすることにより、子供たちの活動の指導や支援だけでなく、多様なボランティア活動を通じて子供たちの豊かな教育環境づくりの推進にも大きく貢献することができること。体験活動では、「何を体験させる」のかではなく、「どう体験させる」のが重要であること。対象者理解では、人として理解する（理解し続けようとする姿勢）こと、自分の「モノサシ・みかた」に自覚的になることが大切であることなどを学びました。



なぜボランティア活動が大切なのか、考えます。



子供の行動の「どうして？」を発達心理学の視点で考えます。

【2日目】ねらい：自然体験活動（主に技術）の基本を理解する日

「自然体験活動の特質」では、「見方を変える」ことを意識し、当たり前にある自然が体験アクティビティの素材となることを学びました。「自然体験活動の技術」では、火と刃物の安全な指導の仕方について体験しました。また、野外炊事では、あらかじめメニューが決まっているのではなく、与えられた材料から、各グループでメニューを考え、調理していく活動を行いました。「自然体験活動の指導」では、指導者として人の前に立つときの心構えを、活動を通して学びました。



自然のたからもの探しをしているところです。



薪割りの安全な指導の仕方を学んでいます。

【3日目】

ねらい：自然体験活動の全容を理解し、これからの指導者としての一步を踏み出す日

「自然体験活動の安全管理」では、心構えやリスクマネジメントについて、エクササイズで意見を交わしながら学びました。また講習の最後には、3日間を通してふりかえる時間を設け、各自がNEALリーダーとしての必要な役割について考えをまとめました。



心肺蘇生法を学んでいるところです。受講者みんな真剣です。



登山指導におけるリスクの洗い出しをしています。

アンケートの内容をまとめると

「指導者にとって、大切なことを様々な視点から考えることができた。」

「個人的には苦手意識のあった心理学の分野について、対象者理解での応用の例から新たな学びのヒントを得られた。」

「どの講師の方も、現場を抱えながらの経験からにじみ出てくる lecture ですから申し分ないです。」

といった感想がありました。

(文責・小倉)